

ボ ラン ティ ア

第 96 号



情 報 す い た

編集・発行

吹田市社会福祉協議会ボランティアセンター
吹田市ボランティア連絡会
〒564-0072 吹田市出口町19番2号
市立総合福祉会館内
電話 (06)6339-1210



開会式が終わると、プログラムを手に展示・催し会場に入り、パネルをチェックしながら移動。ボランティア連絡会のコーナーは約520人の参加がありました。

物作りコーナーは人気で、「片手ぶんぶんゴマ」を作っていました。教える方も作る子どもたちも一生懸命です。側で見守る親は心配顔。出来る上がると、ぶんぶん回しながら得意顔でVサイン。親もホッとして笑顔で次の会場へ。



「これ、どうするの?」「ここに糸を通してね...」

音訳体験コーナーでは、好きな本を選びテープに吹き込みます。テープの自分の声に、恥ずかしいような嬉しいよう

な表情をしていました。



録音機の前で自分の声を吹き込み中

点字体験コーナーでは、点字で名刺作り。視覚障がい者の方たちに、点字が正しく書けているかを触読(指で点字を読む)してもらっていました。

偶然、福祉教育で小学校に行っている障がい者の方と、学校で点字を触読してもらった。



た女の子との再会があり、障がい者の方の名前を点字で書いて、女の子が名刺をプレゼントされたそうです。(拍手)

ステージでは、歌体操グループ11人が「手のひらを太陽に」「二人の手」「高原列車は行く」などを披露し、観客も一体となってイベント広場を盛り上げました。



歌体操でロビーはひとこぼ

初めての点字の名刺作りに夢中です♡

どこの展示ロビーもたくさんの方が来場し、健康の大切さを改めて実感したのではないのでしょうか。

(宮田光代)



みんなで大合唱♪「この歌知ってるか?」

7・8月の夏休みを利用してボランティア活動を始める体験プログラムが開催されました。39の市内の福祉施設や団体にご協力いただき、ボランティアに興味はあるけれどもなかなか活動の機会がなかった方など、高校生から60代の方が17施設延べ46人、この夏ボランティア体験をしました。

地域の方がボランティアとなり、同じ地域に住む高齢者の方の心の居場所作りを行っている「いきいきサロン」の活動に大学生が参加しました。千一地区の福祉委員会のサロンです。孫世代のボランティアに、参加者の方の顔もほころびます。



夏のボランティア体験プログラム

「ボランティア出来ているかどうか不安だったけれど、温かく迎えてもらい、とても楽しい体験が出来ました。でも、緊張して疲れた〜。」

この他にも、参加したボランティアの声を一部届けます。

「初めてのボランティア体験で少し緊張しましたが、とても楽しかったです。子どもたちと遊んでいるうちにだんだん仲良くなり、先生にも『すぐく助かりました。』と喜んでいただけるとても嬉しかったです。」

「障がいのある方の食事や移動、プール活動のお手伝いをしました。利用者さんによって出来ること、出来ないことが様々で、出来ることを生かしてお手伝いするのが難しいと感じました。これからも自分が楽しく出来る活動を続けていきたいと思っています。」

ボランティアはいつでも誰でも始められます。あなたの心が動けば、ボランティアセンターまで足を運んでみてください。

ご案内
ブラカードを持って



吹田頑張れ!!



玉送り競技で心をひとつに

甚大な大雨被害をもたらした台風12号の余波が残る9月4日の日曜日、第44回北摂ブロック身体障害者スポーツ・レクリエーション大会が、本市の北千里体育館で開催されました。高槻・島本・茨木・摂津・吹田・池田・豊中・箕面・豊能・能勢の各市町の300余名が参加しました。本市のボランティア連絡会からは20名が参加し、大会の裏方として汗をかきました。

各市町のプラカードを持ち、競技の招集や賞品受け取りの次第です。(小川忠夫)

ご案内など、吹田ボランティア連絡会のユニフォーム姿でテキパキと役割を果たして頑張る様子が印象的でした。

身体に障がいのある方々が、明るく闘志を燃やし頑張っておられる姿には感動しました。また、その方々を応援して、お世話をされている各市町の方々の姿も大会を盛り上げていました。私は初めての参加でしたが、今後このような機会には、少しでもお役にたてるよう参加したいと思っております。

北摂ブロック身体障がい者スポーツレクリエーション大会



災害ボランティアの研修に参加して

「がれきはゴミではない」と言う被災地の人々の声は、私の胸に重くひびきました。ともすれば聞きもらしそうなひと言。被災地の人々にとって、がれきは「ふる里・わがまち・生活の場」であったのです。それゆえに、この場所で男性の放尿は禁じられていたのです。

「がれきはふる里である」と言う被災地の人々の思いを、大切に受け止められた近畿ブロック応援隊を誇りに思います。

吹田市社会福祉協議会ボランティアセンターでは、災害時には各種団体との協力が大切であると言う主旨のもとに毎年研修会を企画され、ボランティアコーディネーターも参加して災害時のボランティアの役割などを学んでいます。

日頃からのコミュニケーションが大切だと実感しました。(三好桂子)

吹田・晴の会

総合福祉会館に対面朗読室ができたのを契機に「吹田の障がい者の方に対面朗読を」との想いで、ライトハウスですでに活動していた仲間が集まり、昭和63年に「吹田・晴の会」が結成されました。名前の由来は、お世話になった講師の先生のお名前の一文字をいただいたそうです。

対面朗読活動を中心に、高齢者施設での朗読会、社協だよりやボランティア情報すいた、プライベートテープの作成、信頼関係のもと自宅に伺う訪問朗読を12名で行っています。



訪問朗読に力を入れています♡

月1回の定例会では、和氣あいあいと活動報告、情報交換をされていました。活動の中心となる対面朗読は、約2時間、希望される書物を読む活動ですが、一方通行ではなく、読み手と聞き手が感想や質問など意見交換のできる活動です。

先輩から後輩へ想いと共に技術も伝えながら、活動しています。



ボランティアグループ たけとんぼ

吹田市を中心に、万博周辺に残る貴重な竹林を整備保全する活動を行い、福祉施設・学校等を通して、竹細工加工を教えたり、老人ホームでの介護支援など幅広く地域の発展に貢献されるグループです。



マンドリンの音色に聞き惚れて♪

取材した日の活動は、吹田市山田東にあるグループホーム「たんぼぼ」で、入所者の方々に喫茶で、コーヒー・紅茶・煎茶・昆布茶などのサービス。またマンドリン奏者の楽しい歌のアルバムが開催され、リクエスト曲もあり、今回は14曲も演奏されました。今回の歌詞カード本には、グループホームと同じ名前のタンポポの歌もあり、まずは、この曲でスタートです。今回で歌詞カード本も2冊目とのことで、入所者の方々は「たけとんぼ」の4人のボランティアの心あたたまる心遣いに感激されていました。

(西川 宏)

「ようこそまじわーず」
みんなに会えて楽しい♡
コミュニティサロン
第2・第4火曜日
午後1:00~3:00

今日も部屋の外まで聞こえる大きな笑い声。サロンに集まって楽しく作業。初心者からベテランの方々がお互いに教えあいながら、自分のできていることをされていました。

自分に合うボランティアが見つかるまで続けたい。皆が親切で明るくて楽しい。自分の都合で休むと月2回しかないの間が空く。作業中、細かいことを言うとかんか（ご夫婦で参加）になる。

違った作業が入ると新鮮で『何かあるからここに来る』という楽しみがある。

年に一度のお楽しみ会で、企業見学に行ってみよう。

健康をもらって喜んでいる。地域で自分たちが手伝ったものを見ると嬉しい。

切手など集めたものを友人より頂くが、切手でしおりを作ってあげたいと思っている。

何か役に立てたらという感謝の気持ちをもって活動されていました。また、サロンを支えるセンター、V相談員の方々が皆さんの健康を気遣いながら、できる作業の選択・準備などをされている心遣いに大きな愛を感じました。

(中谷恵子)

目指せ！車いす
ただいまドラム缶8本



クルクルと手元もスムーズ！
“赤い羽根共同募金”ポスター巻き

行事案内

吹田市身体障がい者体育祭

- ◆日時：10月2日(日) 10時～15時半<予定>
- ◆場所：北千里市民体育館

赤い羽根街頭募金

- ◆日時：10月17日(月) 17時～
- ◆場所：江坂駅付近

ボランティア連絡会講座

- (1) ボランティアの原点
講師 京都光華女子大学 石井祐理子 先生
- (2) ボランティア活動の助成金の受け方
講師 エコおもちゃ作り市民塾 小川忠夫 氏
- ◆日時：10月24日(月) 13時半～16時<予定>
- ◆場所：総合福祉会館 社会適応訓練室

- 問い合わせ：
吹田市ボランティアセンター
(☎06-6339-1254)まで

受賞おめでとうございます

済生会創立100周年にあたり、社会福祉法人恩賜財団済生会 総裁寛仁親王殿下より、ボランティアとして協力いただいた方々へ、感謝状が贈られました。
《団体の部》・吹田ボランティア

精神保健福祉ボランティア養成講座 開催

身近になっている「心の病」。地域で生活する仲間として自分たちができることを一緒に考え、行動してみませんか？

- ◆対象：精神保健福祉に関するボランティア活動に興味のある方、全ての講座と実習に1日以上参加できる方
- ◆参加費用：1,000円(資料代・ボランティア保険代)
- ◆申込：吹田市ボランティアセンター(☎06-6339-1254)
- ◆受付期間：11月1日(火)～22日(火) ◆定員：先着40人

日程/会場	内容/講師
11月26日(土) 10時～12時 吹田保健所	・心の病を持った方のお話 ・ボランティアとしてのかかわりについて ・オリエンテーション、実習施設の紹介 ・グループワーク
12月3日(土) 10時～12時 総合福祉会館	・「精神障がいの理解とかかわり方について」 のぞみ福祉会 稲垣恵美 氏 ・グループワーク
12月10日(土) 10時～12時 総合福祉会館	・「精神保健福祉ボランティアとは」 佛教大学 講師 塩満 卓 氏 ・グループワーク

- ◆実習日程表：11月27日(日)～12月9日(金)の間、1日以上参加
- ◎のぞみ福祉会 ブルーリボン
 - ・コーヒー染め…11月29日(火)・30日(水)・12月2日(金)・6日(火)・7日(水) 10時～12時 または 13時半～17時
 - ・お昼ごはんでっせ(昼食会)…12月9日(金) 10時半～13時
 - ・喫茶…期間中(火～土) 9時～17時
- ◎のぞみ福祉会 シード
 - ・街かど探検隊(市内散策)…12月4日(日) 11時～14時半
 - ・おかしづくり・麻雀…12月8日(木) 13時半～16時
- ◎NPO すいた以和貴
 - ・サロン(第2コミキャン2階)…期間中(月～金) 11時～18時
- ◎吹田市障がい者くらし支援室
 - ・グループワーク(ミーティング)…12月7日(水) 10時～12時 など

ご存知ですか？ 残りご飯の 利用方法



ご飯が多く残った時、冷凍保存している家庭が多いのではないのでしょうか？

ご飯を冷凍保存する時、ラップを利用し、大小のハンバーグ型と、平たく細長い型にしておく。この時ラップは必ず二重包みにする。

この型にしておけば、家庭内で打身、捻挫等の湿布剤として、また電子レンジで温めて肩こり、腰痛等のホット剤として快適に使用することができます。ただし電子レンジで温めた場合、直接肌に当たらない。火傷の原因になります。

既存の保冷剤での湿布は、直接肌に当たると刺激があり過ぎますが、冷凍ご飯の場合は、快適に使用できます。ご飯を温め直して食べる時、ラップで二重包みにしているので、湿布剤として使用しても違和感はないと思います。

この利用方法は、私が通院している整骨院の院長に教えていただき、大変調法しています。一度試してみてもいいです。一度試してみてもいいです。一度試してみてもいいです。

(時松幸恵)

編集後記

“ボランティア情報すいた”に携わり2年、情報紙発行の苦労を痛感、第96号の編集後記担当にあたり、年4回の発行で24年間発行し続けた諸先輩の並々ならぬ努力と苦労に敬服致します。まもなく第100号の記念紙号編集委員全員、充実した記念号にすべく、今から想いを馳せています。記事の内容、配布方法等、何でも結構です。皆様の忌憚のない意見をお寄せいただければ幸いです。

(城田好己)

ボランティア相談

ボランティア活動をはじめたい方
ボランティア派遣を希望する方
電話で、気軽にご相談下さい

吹田市ボランティアセンター
06-6339-1210 月～金、1時～4時
(吹田市立総合福祉会館)